

NEWS RELEASE

2025 年 6 月 4 日
株式会社三菱総合研究所
三菱総研 DCS 株式会社

日本企業の DX 推進状況調査結果【2025 年度詳細版】を公表

株式会社三菱総合研究所(代表取締役社長:藪田健二、以下 MRI)と三菱総研 DCS 株式会社(代表取締役社長:亀田浩樹)は、売上高 100 億円以上の国内民間企業を対象とした「DX 推進状況調査」を実施し、レポート「AI ファーストへのギアチェンジ」をまとめました。

1. 背景

4 月に公表した「DX 推進状況調査結果【2025 年度速報版】」では、デジタル化の推移や AI 活用状況等、調査結果の要点をお伝えしました。

<https://www.mri.co.jp/news/press/20250410.html>

このたび、調査結果をさらに掘り下げて分析し、レポート「AI ファーストへのギアチェンジ」として公表します。

また、本レポートと同じテーマで、実務における DX 推進のノウハウをお伝えするイベント「MRI DXDAY」を 7 月 23 日に開催します。

2. レポート概要

(1)エグゼクティブサマリ

■デジタル化の成果・取り組みの二極化

▼成果の違い

- ・ 財務成果:デジタルライゼーションにとどまる企業(デジタルライゼーション企業)は、売り上げ増とコスト削減の成果が限定的である(または成果が出ていない)のに対し、ビジネス変革に取り組む企業(ビジネス変革企業)は想定通りの成果を出している。
- ・ 経営の柔軟性:デジタルライゼーション企業は、オペレーションに制約を抱え環境変化に迅速な対応ができていないが、ビジネス変革企業は、柔軟な体制を整え変化に即座に対応。また、経営戦略と DX 計画・取り組みが、内容・指標の両面で連動している。

▼取り組みの違い

比較軸	デジタルライゼーション企業	ビジネス変革企業
①ビジョンの策定・実行	中長期視点が不十分	中長期視点あり
②投資意思決定	投資意思決定に労力	投資意思決定が円滑
③組織・人材	体制構築が難航	体制構築が円滑
	デジタルスキルは所与。業務理解、変化に前向きなマインドも重要	
④生成AIの利用	未導入／用途が限定的	多様な業務で利用

■AI 利用の現状と今後の展望

▼利用状況

- ・ 生成 AI の業務利用率は約半数の 45.7%。前回調査 25.5%から+20.2%と大幅増加。
- ・ 生成 AI の用途は、「文章要約翻訳」「外部情報収集」「社内情報検索」が上位。経年比較では「レポート作成」「コンテンツ制作(画像／動画生成)」等の利用が増加。

▼今後の展望

- ・ 次なる技術ブレイクスルーである AI エージェント化は、「従業員向けサポートサービス(社内ヘルプデスク・社内文書検索等)」への期待が高い。
- ・ 当社が支援する企業では、マーケティング、セールス、カスタマーサポート等、「業務特化利用」段階への移行の兆しが見られる。今後、より事業の中核に近い重要業務に特化した利用が進むことで、成果に対するインパクトも大きくなると予測される。

■提言(AI ファーストへのギアチェンジ)

▼提言①:DX 施策が一巡した今、求められる業務変革 2.0

<DX ガバナンスの強化>

- ・ 試行の段階から成果の実感・変革の段階へ進むためには「成果目標の具体化とコミットメント」がポイント。

<事業 이슈を解決していく価値創造ストーリーの再考>

- ・ 個別業務 이슈ではなく、「業務の垣根を越えて事業 이슈を解決していく、価値創造ストーリーの再考」が必要。

<変革リーダーの発掘・育成>

- ・ デジタルリテラシーのみでは不十分で、内発的な変革をけん引するリーダーが重要。

▼提言②:AIのパラダイムシフトを成長に取り込む

<AI ファーストな業務改革>

- ・ AI を単なる便利なツールではなく、事業のあり方を変えるベースと捉え、事業や業務の全体設計を行うことが重要。
- ・ 特に業務変革では、改めて自社のバリューチェーンを俯瞰(ふかん)し、AI を用いて業務自動化・対応無人化する領域を定め、それが実現する組織やシステムのあり方を描くことが肝要。

詳細は調査レポートをご覧ください。ご希望の方は、下記フォームにアクセスのうえ必要事項をご入力ください。折り返しダウンロード用 URL をご案内します。

[調査レポート「AI ファーストへのギアチェンジ」を申し込む](#)

[関連イベント「MRI DXDAY\(7月23日 Web 開催\)」はこちら](#)

(2)レポート内容・構成

第1章 エグゼクティブサマリ

第2章 デジタル化の概況

第3章 デジタル化の成果・取り組みの二極化

第4章 AI利用の現状と今後の展望

第5章 提言(AIファーストへのギアチェンジ)

提言①:DX施策が一巡した今、求められる業務変革 2.0

提言②:AIのパラダイムシフトを成長に取り込む

第6章 APPENDIX(業界別トレンド・各種取り組みの推移)



【参考】調査概要

(1) 調査時期:2025 年 1 月

(2) 調査方法:Web アンケート

(3) 調査対象:

対象企業:直近1年間の売上が100億円以上の企業

回答者:自社内のデジタル化・DXの取り組みに関与している従業員1,000名

3. 関連イベント「MRI DXDAY(7月23日 Web開催)」のご案内

「AIファーストへのギアチェンジ」に関して、イベント「MRI DXDAY」を7月23日に開催します。日本を代表する企業のリーダーの実体験にもとづく基調講演や、三菱総研グループが支援するお客さまの取り組み事例、最新のトレンドなどをもとに、企業経営や業務課題の解決に資するDX推進のノウハウをお伝えします。

基調講演では、経済産業省のDX銘柄グランプリ2024に選出された株式会社アシックスの執行役員 CIO

大島啓文氏と、先進的な業務特化型生成 AI に取り組む麒麟ホールディングス株式会社の常務執行役員 山形光晴氏が登壇。変革を推進する上で直面した課題や苦勞、その解決に向けたリアルな体験談をご講演いただきます。

▼概要

- ・タイトル:「AI ファーストへのギアチェンジ」
- ・日時:2005 年 7 月 23 日(水) 10 時~12 時 15 分 (予定)
- ・会場:オンライン開催
- ・共催:株式会社三菱総合研究所、三菱総研 DCS 株式会社
- ・申し込み URL:<https://dx.mri.co.jp/dxday/>

[MRI DXDAY「AI ファーストへのギアチェンジ」詳細はこちら](#)

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所
〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】
デジタルイノベーション部門
統括室 梅田、平島
メール:service@mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】
グループ広報部
メール:media@mri.co.jp

三菱総研DCS株式会社
〒108-0073
東京都港区三田三丁目 5 番 19 号
広報部
メール:kouhou@dcs.co.jp